

農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.lg.jp/nodai/>

第 18 号 香川県立農業大学校
〒 766-0004
仲多度郡琴平町榎井 34-3
TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989
E-mail : nodai@pref.kagawa.lg.jp

- 校長あいさつ
 先進地視察研修報告
 中四プロジェクト発表会
 卒論発表会
 同窓会だより
 活躍する卒業生
 技術研修科だより
 頑張る修了生
 学生募集
 教職員名簿



4 月 12 日 入学式

入学生宣誓 村上絵美さん

経営の視点から 農業を見てみよう

校長 高橋 清

今年も希望を抱き、目を輝かせた学生・研修生を迎えることができました。これから農大で、一生懸命農業を学び、本県農業を引っ張る担い手に成長されることを心から願っています。

農業は私たちの生命と健康に欠かせない食料を生み出す産業として、時代を超えた存在です。

一方、これからの農業に欠かせないのが経営力です。経営の観点を取り入れることで、新たな農業に挑戦できたり、食の可能性を広げたりと、新たな領域が見えてきます。

そのためには、農業を営んでいくのに必要な知識、経営者に求められる判断力と決断力も、栽培技術と併せて身に付けていただきたいと思えます。

また、クラブ活動や自治会活動に積極的に参加し、コミュニケーション力を培いましょう。

先進地視察研修報告

野菜園芸コース



京都府庁で説明を聞く

野菜園芸コースは京都、大阪で県外研修を行いました。

最初に錦市場商店街で販売されている京野菜の種類や荷姿を調査しました。野菜だけでなく、漬物の店舗が多数あり、様々な種類の野菜の漬物の試食用の展示が美しく並べられていました。次に京都府庁を訪ね、「京のブランド産品」の取り組みについて説明を聞きました。

二日目は二班に分かれて研

修を行いました。「京つけものもり」で研修した班は、直営農場と本社を訪ねて漬物用野菜の生産と漬物の製造について学び、いろいろな野菜の漬物の試食を行いました。もう一つの班は産地直売所「じねんと市場」で京野菜の調査をした後、野菜を用いたスイーツを作っている「京都紀翔」を訪ねて野菜の加工品の開発について話を聞きました。

三日目は大阪府で大阪中央卸売市場に行き、野菜の市場流通の仕組みを学ぶとともに、県産野菜の販売の状況について話を聞きました。また、中央卸売市場に集まる様々な野菜の見学を行いました。日頃あまり見ることのない珍しい野菜も見ることができました。

花き園芸コース

花き園芸コース四名は、福岡県内の福岡市植物園や県農林業総合試験場のほか、洋ラシン生産者や市内の花市場等で先進地研修を行いました。

福岡市植物園は、動物園と一体となった都市緑化植物園

で、花木や草花、野草、ランなど、二六四〇種、十九万株の植物が植栽されており、その種類の多さに驚きました。博多駅周辺のフラワーショップでの市場調査では、何店か巡る中で、学生達は地方と都市部の販売価格の違いを実感していました。



福岡県農林業総合試験場にて

県農林業総合試験場では、キク、トルコギキョウ、花木を中心とした試験研究の状況について説明を受け、とくに県オリジナル品種の育成や低コスト化技術の開発に重点がおかれていました。

永利園芸は、デンドロビウムやオンシジウムなどを中心

に一〇〇〇坪で経営しており、自ら育種したオリジナル品種による有利販売や海外でのリレー育苗による低コスト生産などに取り組んでいました。また、販売面では、自らセールスしたり、販売動向に応じて常に生産形態を変化していかない生き残れないなどの経営理念も伺いました。

福岡花市場は、県花卉農協が運営する市場で、組合員は一二〇〇名、買参人は一五〇名で、大消費地を抱える大型市場でした。同市場でも、相対取引販売が主体で、せりにかけるのは全体の二割とのことでした。市場内での見学では、市場の仕組みや品目の取扱状況について説明を受けたり、学生からも質問して、花きの消費・流通に関する見聞を深めました。

果樹園芸コース

果樹園芸コース五名は、青果部等では、日本一の取扱規模である東京都中央卸売市場大田市場と高級果実専門店を中心に、果実の流通販売状況

の視察研修を行いました。大田市場では各産地からの出荷された品物やせりの状況を見学しました。学生たちはその規模の大きさと出荷量、国内外からの品数の多さと市場内の関係者の多さと作業の慌ただしさに終始圧倒されていました。

ここでは、卸売業者や仲卸売業者の方々や市場駐在の担当者から県産果実の評価や本県産への課題等の「生の流通ニーズ」を聞くことができ、東京における県オリジナル品種のキウイフルーツ「さぬきゴールド」「香緑」やブドウの「シャインマスカット」等は品質に対する高評価で高値が得られており、県産オリジナル品の量の安定性への期待がより一層寄せられました。

また、都内の高級果実専門店や百貨店内のフルーツブースでは最高級果実とディスプレイやPOPなど「世界のTOKYO」超一流を実感し、なおも購買意欲をそそられ、皆が息を飲む状態でした。店舗では、商品説明、陳列や販売促進に至り、徹底した品質

管理などについて学ぶことができました。接客対応の細かさや商品知識など販売の重要さを改めて感じました。

この貴重な研修は専攻実習や卒業論文をまとめる中に反映されることと思います。



高級果実専門店での説明を聞く

造園緑化コース

造園緑化コースは一日目に、長崎バイオパークで造園家の金井良一氏が手掛けたキリン舎などを見学しました。キリン舎は、廃材利用の割には屋根の高さが約7mの非常に立派な建物や、キリンが餌を食べやすいようにした二階建ての餌やり場、カップルのキリ

ンを宣伝する微笑ましいハー卜型デザインの水飲み場などに工夫がこらされていました。



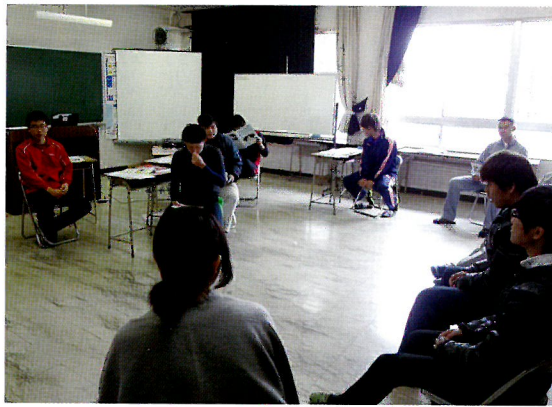
グラバー園にて

二日目は、長崎ハウステンボスに行きテーマパークの庭園やエクステリアを見学しました。園内では、荘厳で大きくお洒落な古いヨーロッパ風のホテルの建物、チューリップなどの草花を用いて色合いが工夫され管理が行き届いた幾何学模様の花壇及び園内の水路沿いの実際の住居である水上に浮かんだようなモダンな洋風のマンションエリアの景観が印象的でした。その後、世界遺産となった旧グラバー住宅を始め、グラバー園を見

学しました。異国情緒のある洋風の建物や開放的な花壇や港を見下ろす景観に気持ちがあらぎました。

今回は、和風庭園とは違う現代風庭園の魅力を研修できた旅行となりました。

畜産コース



長崎県立農業大学校との交流

今年三月九日十一日に長崎県へ行ってきました。

一日目は、西海市にある長崎バイオパークの自然開放動物園を見学しました。この動物園は危険動物である肉食動物は飼育してなく、おとなしい草食動物であるカピバラや

リスザルなどと直接ふれあうことができました。

二日目には、島原市にある長崎県立農業大学校で学生交流や施設見学をしました。ここでは、畜産学科は全寮制で一年生六名でした。学生交流では、お互い将来の夢など語り合いました。施設見学では、広々とした環境で、繁殖和牛一八頭と繁殖豚二〇頭を飼育していて、牛放牧場やトラクターなどの機械も完備していました。また、同じ敷地内に畜産試験場である農林技術開発センター畜産研究部門があり、酪農、肉牛、草地などを見学しました。今回の研修は同世代の長崎県立農業大学校の学生と交流ができて貴重な経験になりました。

中国四国ブロックプロジェクト発表会

平成二八年一月二二、二三日の二日間、鳥取県米子市において中国四国ブロックプロジェクト発表会が開催されました。本校からは九名、全体で一〇名が出席し、一九課



鳥取園試弓浜砂丘地分場にて

題の発表がありました。
 本校の発表は二課題。内海良範さんの「モモの大玉果生産による安定した経営を目指して」と中川元子さんの「ペランダ緑化の設計・施工及びその管理における課題と対策」です。大勢の前で緊張しながらも、両名は普段の練習どおり、しっかりと発表した発表を行いました。
 交流会では他校の学生との親睦を深め、二日目は境港市の川岡農場と鳥取園試弓浜砂丘地分場、西伯郡日吉津村の J A グリーンせいぶ・ふれあい村アスパルを見学しました。

校内卒業発表会

平成二八年一月一五日に校内卒業論文発表会を行いました。

二年生は、専攻実習の授業を通して課題を設定し、課題解決のために調査研究した結果を取りまとめ発表に臨みました。限られた持ち時間の中で、研究成果や問題点、生産現場での実用性などを整理

して伝えようとする苦心の跡がみられました。

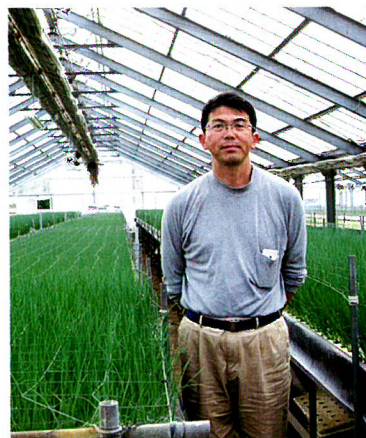
一年生も発表の進行役として活躍し、来年度に向けて発表の場を経験しました。生徒も含めた出席者による採点の結果、優秀者は次の五名となりました。

- 造園緑化 中川 元子
- 果樹園芸 内海 良範
- 野菜園芸 今田 雅人
- 野菜園芸 濱口 昌志
- 野菜園芸 上原 志織

コース	氏名	課題名
野菜園芸	井川 奈月	香川県に適したオクラの品種選定
	和泉 多洋	ミニトマト栽培省力化のための整枝法の検討
	今田 雅人	露地ナス省力化のための施肥方法の検討
	上原 志織	イチゴ「さぬき姫」の糖酸度及び登熟日数に関する調査
	鎌倉 良光	キャベツ根こぶ病対策としての品種及び薬剤の検討
	住友 つぐみ	ブロッコリーのマルチ栽培の経営評価
	清田 哲也	ブロッコリー早期畝立てマルチ栽培における追肥方法の検討
	濱口 昌志	窒素過多がタマネギ苗生育に及ぼす影響
	溝縁 真也	キャベツの早期畝立てにおける除草対策
	山下 紗恵	トマトの高温時における品質向上対策
横山 拓也	アスパラガス高畝栽培では改植できるのか	
花き園芸	稲毛 麻未	バンジーの播種時期並びにピオラの矮化剤処理の検討
	景山 敬介	ヒマワリの栽植密度及び灌水打ち切り時期が切花品質に及ぼす影響
果樹園芸	松村 莉杏	ポインセチア「レッドソウル」における矮化剤処理が生育に及ぼす影響
	内海 良範	モモの大玉果生産による安定した経営を目指して
	太田 遥華	「シャインマスカット」のフルメット液剤による使用濃度の検討
	織田 佑貴也	ウンシュウミカン「小原紅早生」の摘果方法が果実品質に与える影響
	奈良 佑亮	キウイフルーツ「香緑」の着果位置及び結果枝の長さが果実品質に及ぼす影響
	西岡 晃平	カキ「太秋」における尿素的葉面散布による大玉果生産
緑造化園	北条 友佳	買田農場のウンシュウミカンの品種比較
	岩崎 優樹	松で描いた象頭山の石台（せきだい）盆景
	上枝 誠樹	木の効率的な挿し木繁殖方法を求めて
	大野 寛史	造園技能検定実技試験庭園の作成
	大美 郁弥	網代（あじろ）垣のある和風庭園の作成
	堀家 麻衣	ポタジェ風花壇の設計・施工
	和木 佑太	タマリユウマツ苗の育苗方法の検討
畜産	中川 元子	ペランダ緑化の設計・施工及びその管理における課題と対策
	児島 龍之介	小麦由来リポポリサッカライド (LPS) の乳牛への給与の有効性
	三好 朱音	乳用牛の暑熱対策による受胎率向上

同窓会だより

さぬき市
 株式会社さぬきベジファーム
 代表取締役
 藤澤 明さん（四十六歳）



私は家が水耕栽培のネギと水稲を栽培している農家だったので、石田高校から農業大の野菜コースに進学し、平成元年度に卒業しました。

農大で一番良かったと思うのは専攻実習です。私は、当時の農業試験場三木分場でイチゴの品種改良（後の「さぬき姫」）を卒業論文の課題にして、勉強させてもらいました。一年間イチゴの栽培管理をまかせてもらって、自分で体験した栽培のことは、自分なりによく理解できたように思い

ます。

卒業後は、地元の農協に就職し、退職するまでの六年間イチゴの担当をさせてもらいました。ここでも専攻実習の三木分場で経験したことはとても役に立ちました。また、その時にお世話になった農業試験場の先生方には就職してからも、事ある毎にいろいろアドバイスをいただきました。

農協を辞めてからは、親がやっていたネギ栽培を始めましたが、まず私が思ったのは、「販売量を増やすこと」です。以前の家の経営では、出荷量が少なかったので有利に販売できていなかったように思っていたからです。

そこで、平成二一年に法人経営を開始し、平成二六年に現在の株式会社さぬきベジファームに変更しました。この会社の役員は家族では私だけ、家族経営の会社ではありません。個人や家族経営のリスクを回避して、経営を発展させるために「会社」という形にこだわって農業をしたいと思っています。

現在は、従業員三人、海外

研修生六人とパートで、ネギ九ha、キャベツ七ha、ブロッコリー一ha等を栽培しています。

今後はさらに規模を拡大して、会社を発展させようと思っています。会社が発展して儲かるようになれば、農業が好きな新しい人材が生まれて、従業員の家族も地域の土地も守れるようになるからです。

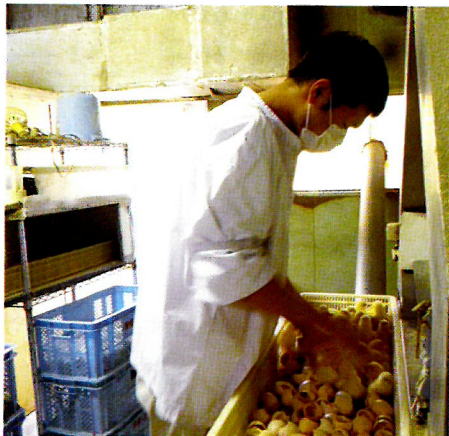
今の農大生には、人との出会いを大切にして欲しいと思います。また、今すぐでなくいいので、社会でいろいろな経験をして、自分のやりたいことを見つけて目標を持って頑張りたいと思います。

活躍する卒業生

岡内 祐樹さん（綾川町）

岡内さんは、平成二七年三月に農業大学校を卒業して三豊市高瀬町の協和フ卵場へ就職して早や一年たちました。協和フ卵場は「良質で健全なヒナ」を生産する為に一年一年努力を積み重ねている株式会社です。岡内さんの仕

事内容は、一週間に五回フ化しているフ卵器からのヒヨコの取出し、卵が受精しているかどうかの検卵、県内六か所ある種鶏場からの受精卵を集卵、ヒヨコを四国四県、兵庫県、京都府の農家に発送など幅広くしています。仕事で生き物を扱っている関係上まだまだ未熟者ですが、早くエキスパートとなり香川県の養鶏業界を引っ張る人材になってください。



技術研修科だより

技術研修科では、県内の新規就農者等農業者の栽培管理技術等をフォローアップすることを目的として、栽培管理

で四項目（有機農業・農業機械利用・パワーシヨベル安全利用・パイプハウス組立）、栽培環境で三項目（病虫害防除と農薬適正使用・土壤診断・鳥獣害防止対策）の合計七項目のフォローアップ研修を実施しています。



新規就農者以外の方でも、受講を希望される方は申し込みが可能で、これまでも多くの方が受講されています。申込期限は、実施時期の一月前となっております。なお、定員を超過した場合は、書類選考にて受講者を決定します。

平成二八年度の研修項目で、

六月以降で申し込みできる研修もありますので、希望がありましたらぜひ申し込みをお願ひします。

頑張る修了生

二川 大地さん (高松市)

二川大地氏は平成二六年度の就農実践研修生で、研修修了後は高松市で就農しています。

現在は、三人の労力でニンニク・ネギ・スイートコーン・ナバナなどの露地野菜を約二haの規模まで拡大しています。農地は香川県農地機構を通じて集約化を図ってきましたが、野菜栽培に適した農地の確保はなかなか難しいのが実情です。

品質の高い野菜の生産はもちろんのこと、販路開拓にも熱心で、ネギでは独自の販売ルートで業務向けにも出荷しています。

今後の目標は、雇用環境を改善することです。そのためには早期に法人化に取り組み、雇用労力を確保しつつ、更なる

作付規模の拡大を目指すこととしています。



農大で研修を受ける前は、肥料の三要素(窒素・リン酸・加里)といった基本的な知識もない状態だったので、一年間の農場での栽培実習や調整作業、講義での知識の習得などは、今でも貴重な財産となっていますと語ってくれました。

学生募集

オープンキャンパス

開催日は、七月二四日(日)、八月五日(金)、八月一七日(水)の三回で、時間はいずれも九時三〇分～一二時です。学生を対象とした「農場実習体験コース」は、①野菜、

②果樹、③花き、④造園、⑤畜産の五コースからの選択となります。また、学生、保護者、高校教諭を対象とした「学校施設案内コース」もありますので、開催日の二日前までに本校の教務課に電話で申し込んでください。

推薦入学試験の願書受付期間は九月二九日～十月一二日で、試験日は十月二〇日です。前期の一般入学試験の願書受付期間は一月一日～二月一日で、試験日は翌二九年一月五日です。後期の一般入学試験の願書受付期間は二九年二月九日～二月一五日で、試験日は二月二三日です。詳細は本校教務課まで。

農薬大学校教職員名簿

校長	高橋 清
副校長	大谷 衛
総務研修課長	永原 浩
(庶務・経理担当)	
主任	宮武ふみ代
主任	松林 好則
主任	内藤 哲士
主任	梶原 昇

(研修担当)	准教授	横井 弘善
	准教授	吉田 一史
	教授	大矢玲二郎
	教授	香川 秀範
	教務課長(兼)	大谷 衛
(学務・農場担当)	教授	松本 英治
	准教授	三野 真弓
	農場管理員	末澤 賢二
		和泉 弘美
		真鍋 利正
		野村 和親
(野菜園芸コース)	教授	藤村 耕一
	教授	牛田 均
	教育助手	溝縁 真也
(花き園芸コース)	准教授	大原 一能
	教授	上原 廣大
	教育助手	稲毛 麻未
(果樹園芸コース)	教授	山口 登
	教授	各務 好行
	教育助手	奈良 佑亮
(造園緑化コース)	教授	大西 孝志
	教授	祖一 範夫
	教育助手	溝淵 敏広
(畜産コース)	教授	真鍋 圭哲